

平成 30 年度第 1 回あわら市郷土歴史資料館運営協議会会議録

日 時：平成 30 年 5 月 11 日（金）

午後 3 時から

場 所：あわら市役所 2 階 202 会議室

（日程）

1. 委嘱状交付
2. 教育長挨拶
3. 委員紹介
4. 委員長および副委員長の互選
5. 委員長挨拶
6. 議 題
 - (1) 平成 30 年度あわら市郷土歴史資料館事業について
 - (2) その他
7. 閉会

（出席委員）

吉田 純一	水野 和雄	長谷川裕子	宇都宮高栄
荒木 秀子	寺井 玲子		

（欠席委員）

能美 進

（事務局）

文化学習課長	岡田 晃昌	郷土歴史資料館館長	佐藤 雅美
資料館館長補佐	橋本 幸久	資料館学芸員	九千房英之
館長補佐		郷土歴史資料館	畑 衣利奈

【委嘱状交付】

教育長から各委員へ委嘱状を交付

【教育長挨拶】

挨拶終了後、教育長は所用のため退出

【委員紹介】

委員が順次自己紹介を行う。

【委員長および副委員長の選出】

事務局が資料館運営協議会委員の役割について説明を行う。続いて、委員長、副委員長の選出について説明した後、委員の互選により、委員長に水野和雄委員、副委員長に宇都宮 高栄委員が選出され、承認された。

【委員長挨拶】

【議題】

- (1) 平成 30 年度あわら市郷土歴史資料館事業について
事務局が説明を行う。

【質疑応答】

委員長：事務局の説明に対し、何かご意見、ご質問はあるか？

委員：出前授業を行った伊井小学校は古墳に連れていったのか？

事務局：はい。

委員：小松市埋蔵文化財センターの「校下別代表遺跡で語る」が良いなど感じていた。あわら市でも早速こういう形で取り入れているのは良いと思う。現場へ足を運ぶということは体で覚えるということになるから、積極的に行って欲しい。

委員：連れて行くのは小学生だけか？

事務局：中学生も入っている。

委員：大人向けのものはあるか？

事務局：天王区で遠足を開催するので、神宮寺城跡を一緒に案内してほしいという依頼があったが、雨天中止となった。

また、昨年菅野地区の老人会の依頼で出張講座を行っている。しかし担当者数の関係で手が回らないため、大人向けの出張講座は依頼があったときという形で実施している。学校への出前授業は市としても推めており、各学校がバスをレンタルする予算もつけている。ある程度離れた場所でも移動が可能となっている。

委員長：学校から課外授業で資料館まで来てもらうことは難しいか？市内近在の3年生、4年生と決めて1時間授業を行ったらどうか？

館長：小学校2年生は市内を回ることを授業の一環で行っている。IKKOSAは金津地区にあるため、金津地区の児童に来てもらい、1階の図書館と2階の資料館を見学してもらっている。

委員：教育委員会またはあわら市の小中学校に年間のバス代予算をつけてもらい、自由に使うことができると以前から考えていたので、先ほど

の話はバス代の予算がつくのは良いことだと思う。

委員長：館長の話にあった授業の一環での小学2年生の来館は、29年度の入館者数のに入っているか？

事務局：入っている。

委員長：今後、一部の企画展で入場料の徴収をするようだが、それには何か特別な意図があるのか？

事務局：昨年、特別展を無料で開催した際、無料で見られる展示はたいして見るべきものはないという観客の意識が多いように感じた。そこで、条例を有料にもできるように改正した。とはいえ、中学生以下と70歳以上は無料なので、現在当館に来られている多くの人は無料のままである。また、市の財政も厳しく、企画展にはそれなりの費用も掛かるので、その一部を入場者に負担してもらう形になった。

委員：体験教室の材料費は徴収しているのか？

事務局：体験教室は、全額でないが、一部負担してもらっている。

委員長：ほかに何かご質問はあるか？

委員：芦原温泉展の講演のことだが、松井先生とは話されたか？

事務局：はい。前田先生のような著名人を資料館単独で招くのは難しく、松井先生の紹介で前田先生を紹介してもらった。

委員長：謝礼額が高くはないか？

事務局：松井先生のおかげで一般的な謝礼金で来てもらえることになった。

委員長：人が多く来るようにもっと宣伝した方がいいのではないか？

事務局：もっと宣伝する必要は感じている。委員の皆さまも、是非とも知り合いなどに呼びかけをお願いしたい。

委員長：講演会はどこで開催するのか？

事務局：金津 IKOSSA の3階大ホールで行う。参加者は約70人を予定している。

委員：講演会やふるさと講座などのイベントがあることを広報で見て知っているが、市外の人にイベントを知ってもらう方法を考えて欲しい。以前、講演会があった時に市外から来られた人が今はイベントをしていないのか？と話されたのを耳にした。新聞に掲載されることもあるようだが、もっと大々的に広報して欲しい。新聞に記事として掲載すると料金がかかるのか？

事務局：企画展は新聞社の名義後援を依頼しているので、イベント欄への掲載はある。ふるさと講座などでは名義後援を取っていない。市政課を通じて投げ込みをすれば取り上げてくれるかもしれないが、掲載されるかはメディア任せとなっている。広報が足りないのではという意見もいただいているが、どのように広報していけば良いか悩んでいる。

委員：メール会員制にしてイベント情報を送ることは可能か？

事務局：可能だ。

委員：希望者は会員登録すると発信してもらえるとこの形にしたらどうか？

事務局：イベントのアンケートで案内を希望する人もおられるが、整理しきれ
ていない。候補としてメーリングリストを検討する。

委員長：今後、決まっているイベントは館のイベントメニューを作成したらど
うか？そういうものがないとイベント情報が外に伝わりにくい。

事務局：ポスターは制作費をつけてもらっているが、企画展のチラシは自前で
作成する人が多い。年配の人は広報紙を見られているが、イベント
情報とその都度しか伝わらない。今回の意見を次年度以降の予算要求
に反映していきたい。

委員：年間スケジュール配布し、かつメーリングリストの方に送付したらよ
いと思う。

委員長：市役所や資料館に置いたらどうか？

事務局：すぐに行く。

委員長：道の駅への配布や回覧板にして家の方にも宣伝したらどうか。今は宣
伝の時代。県内の学校へも配りに行くなどして、初めて周知できると
思う。

事務局：市内で行われるイベントでも熱心な主催団体は各家に配っていると聞
いている。当館では駅などには配布していないので、今後は置いても
らえるようにしたいと思う。

委員：市の広報紙は毎月資料館のことが掲載されているのか？

事務局：毎月半ページ分のスペースで掲載している。

委員：市内には情報が伝わっているように感じる。

委員：資料館のホームページを見てみると、資料館便りが2015年5月15日
の2号から更新されていないが、なぜか？

事務局：更新していくつもりだったが、広報紙に半ページ分を掲載するようにな
り、内容が重なることから、2号で廃止することになった。本来なら
「年報」を出さないといけないとが、現在の人員・予算では難しい。

委員：是非とも年報や紀要という形で出して欲しい。

事務局：社会教育委員会や教育委員会等に掲載される資料に、当館がどうい
うことを今までに行ってきたかという記録はある。しかし、中々見るこ
とができないと思う。

委員：もう少し職員の数を増やした方が良いとのでは。

委員長：資料館が建ってから今年で5年とのことだが、館ができた当初から
継続して作成しないと職員が何人いて、どんなことをしてきたのか、

情報が途絶えてしまう。毎年作成しなくても良いので、わかるうちに残しておいた方が良い。

委員：年報さえあれば、ホームページに掲載しておけば良い。

事務局：これまでの記録を年報として何年分かまとめ、1年毎にまとめておいたものはホームページに掲載するという形でやっていたい。

委員：今までの講演録はあるか？

事務局：これまでのはない。

委員：講演録は残しておいた方が良い。

また、少人数でこれだけの企画をするのは大変だと思うが、常設展の展示は替えをしているか？

事務局：去年は替えられなかったが、一部ずつ替えている。企画展で取り上げた時代や関連した物を中心に、時代毎にローテーションで替えていきたいと考えている。

なお、本陣飾りについては、毎年入れ替えを行っている。

委員：常設展で何か人を呼び込めるものはあるか？

事務局：以前、子どもを対象にした博物館に勤務していた経験がある職員がいるので、その手法を生かして大人も楽しめる展示方法を検討している。

委員長：グッズを販売したらどうか？

事務局：検討してみたい。

委員：クリアファイルならどうか。

事務局：玦状耳飾デザインで作って、広報用に配布するのも良いかもしれない。

委員：グッズ販売などで入る売上金は資料館で使用できるのか。

事務局：収入は全て市に入るので、資料館の予算としては使用できない。

委員長：資料館の人員について、試掘調査ならまだ良いが、本格的な発掘調査が入ったら資料館は運営できないように感じるがどうか。

事務局：現在、人員は不足している。本来は、埋蔵担当者が春季展を担当する予定だったが、報告書作成の仕事を抱えており、学芸員に春季・秋季両企画展を担当してもらうことになっている。昨年、埋蔵文化財専門の学芸員を募集したが、残念ながら採用できなかった。今年も募集を出す予定でいる。

委員：市内には遺跡がたくさんあるが、知らない人も多いのでは。毎年一か所だけでも良いので、現地見学ツアーを行ってはどうか？

事務局：見学ツアーは人気があるので、開催を検討していきたい。

委員長：見学に行く際は現地集合であっても保険をかけないといけない。

事務局：来年度以降の話になるので、調べる。

委員：10年以上金津に住んでいるが、金津は特徴がない町だと思っていた。

しかし、資料館講座や講演会などをきっかけに金津ってすごいところだと知ることができた。ふるさと講座や講演会などを通して、あわら市について興味や関心をもってもらいたい。もっとアピールしてもらいたい。

事務局：あわら市の歴史がとても面白いと感じている。この面白さを市民にも知って欲しいと思う。また、もっと活性化させて北陸新幹線の敦賀延伸時にも役立てていきたい。委員の皆さんの力を借りて、様々なことに取り組んでいきたいと思う。

委員長：IKKOSAにはそんなに人が来ていないというイメージはないが、来館者がもう一度来たいと思える場所にしなければならない。それには、コミュニケーションが大事になる。来館者が来て、展示を見るだけではないと感じている。そういう意味では、ボランティアガイドが必要と思う。

委員：ボランティアの事務局を資料館で行うということになると、段取りもかかるので今の人数では回せないだろうと思う。

事務局：外部団体に協力を仰ぐ、受付の人に来館者とのコミュニケーションを積極的にとってもらう方法もあるかと思う。ただ一人で展示を見るよりは専門の人の話を聞きながら、展示を見るのは面白いと喜んでくれる人も多い。ボランティアガイドを作りたいと思っていたが、人間的な問題で難しかった。ボランティアを作る以前に職員の声かけ、接客などのおもてなし力をつけ、改善していきたいと考えている。

委員長：製鉄の実演はすばらしいと思いますが、どこで行うのか？

事務局：金津神社の境内で行う。

委員長：実演は子供たちも見に来たがると思う。その際、資料館の展示も合わせて見学してもらったどうか。古代から製鉄づくりが盛んな金津なので、実演を年1回開催するというのも良いのでは。

委員：昔は元旦にも行っていた。

委員長：市指定文化財となった細呂木製鉄遺跡がどこにあるのか知らない人もいると思う。実演を見る機会があれば、興味をもってくれて足を運ぶきっかけにもなる。

事務局：製鉄の実演は、ずっと現地にいるのではなく、最初の導入部分を説明したあと、資料館で展示をみてもらい、出来上がったところを見計らって現地へ戻る予定をしている。細呂木製鉄遺跡は、今後整備して、公園化を考えており、その中で実演を行えたらと考えている。

委員長：他に何かございませんか？無いようですので、次の議題に移ります。

【議題】

(2) その他

委員長：その他で何かご意見などはございませんか？

委員：林薬局の古い看板を見て、町中の古い看板をみんなで探すイベントを行ってはどうかと思った。一般の人を呼び込む、巻き込むことが普及活動においては大事だと思う。

事務局：一つの良い例ですし、SNS にあげてもらうのも面白いと思う。

委員長：歴史を学ぼうなどの活動組織の受け皿として、館の部屋を貸したりできたら良いと思うがどうか？

事務局：中央公民館や、地区の公民館がその受け皿となっている。

委員長：今は古文書の会はもう無いのか？

事務局：古文書の会は、現在も地元の先生が受け継いで IKKOSA3 階の市民文化研修センターで行われている。しかし、現在の研修室2ではこれ以上人数を増やせず、大きな研修室1は利用日には空きがない。市民文化研修センターは貸館として運営しているので、館が企画して講座などを行うことになれば、やり方を考えないといけないといけない。なお、越前町では、学芸員が連続講座を行っているが、それも一つの方法だと思う。

委員長：自主的に活動をしている人々が資料館を支えていくのが望ましい。館からお願いする形では資料館から人が離れていく。自らの研究であってもみんなで集まって学ぶことになった時、その場所を提供するのが資料館であって欲しい。

また、ボランティアの養成講座を開いて、受講を終了した際にはガイドの認定を行うと、その人たちは常に資料館へ来ることになる。そういうつながりが大事だと考える。

事務局：様々なご意見ありがとうございます。

昨年、当館の職員が亡くなり、その職員の蔵書が残されたままになっており、ご遺族から蔵書を館へ寄贈していただけることになった。今後図書館の検索システムに登録し、整理室内に書架を置いて一般の人も閲覧できるようにしたいと考えている。展示室奥の整理室は作業を見学できるようにガラス張りになっているが、作業を行っていない日の方が多く、何のためにガラス張りになっているのかという厳しい意見をいただいたことがあった。その部分を図書コーナーに変えて有効活用していきたいと考えている。

委員長：他に何かございませんか？無いようですので、これで今日の議事は終了いたします。